

令和8年度
(2026年度)

事業計画書



学校法人巨樹の会

目 次

1. 学校法人の概要	1 ～ 2
2. 事業計画	3
3. 運営方針	4
4. 教育計画	5 ～ 6
5. 設置する学校・学科等	7
6. 各校の事業計画	8
令和健康科学大学	9 ～ 10
小倉リハビリテーション学院	11 ～ 12
下関看護リハビリテーション学校	13
八千代リハビリテーション学院	14
福岡水巻看護専門学校	15
武雄看護リハビリテーション学校	16
7. 学校法人予算書	17
事業活動収支予算書	17
資金収支予算書	18

1. 学校法人の概要

基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

創設者の蒲池眞澄は、「患者のために医療を行う」という強い思いで、昼夜を問わず救急医療に励んできました。その中で医師のパートナーである看護師の教育を行いたいという熱い思いから看護学校を設立しました。また、患者様の生命を救った後の、日常生活動作の回復を考え、リハビリテーションを重視し、理学療法士、作業療法士の育成のためリハビリテーション学院を開校しました。さらに昨今の多様化する医療に応えうる人材を育成すべく、令和4年4月に看護学部、リハビリテーション学部を備えた「令和健康科学大学」を開学、令和7年4月に大学院を開設し、姉妹校専修学校5校とともに、新たな歴史を刻んでおります。

建学の精神

創設者の信念である「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を基本理念とし、医療のスペシャリストになりたいという学生の夢の実現のために「人間愛・自己実現」を教育理念として掲げ、人間性豊かで、社会に貢献できる実践能力を身につけた医療の専門職業教育を目指しています。

教育理念

人間愛・自己実現

学校法人巨樹の会の教育理念は「人間愛・自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指しています。さらに、医療看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していけるような人を育てています。

教育にかける情熱

学校法人巨樹の会は、創設者である蒲池眞澄の「医師のパートナーである看護師の教育を行いたい」という熱い思いから始まりました。さらに、本法人は急速な少子高齢者社会の進展や疾病構造の変化により、在宅分野や予防分野など、リハビリテーションの需要がさらに増大してくる事を鑑み、その中核を担うセラピストの育成にも力を入れています。

知識は、学習の習慣と方法を修得できれば身につけることができます。しかし、医療従事者になりたいという思いは、他者から指導されて身につくものではありません。本当に医療従事者になりたいという思いをもった受験生にきてほしい、これが本法人の創設者の願いです。

本法人では、「人間愛・自己実現」という教育理念のもとで、基礎教育と臨床研修との一貫教育を中核に掲げ、患者様のために実践できる能力を身につけ、社会に貢献できる有能な人材の教育を行っています。

現在、本法人の各学校の卒業生は約18,000人(令和6年3月閉校:福岡看護専門学校・福岡和白リハビリテーション学院 卒業生含む)を超え、看護師・助産師・理学療法士・作業療法士として、全国の医療の第一線で活躍しています。

〔 沿革 〕

平成 2年 4月	学校法人 福岡保健学院 福岡看護専門学校(3年課程)開校
平成 4年 4月	福岡看護専門学校2年課程(夜間定時制)開設
平成16年 4月	小倉リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 下関リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 八千代リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 福岡看護専門学校2年課程(通信制)開設
平成19年 4月	福岡和白リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校
平成20年 4月	福岡看護専門学校水巻校(3年課程)開校
平成22年 4月	下関リハビリテーション学院に看護学科を開設 名称変更:下関看護リハビリテーション学校へ
平成22年 9月	みずまき助産院ひだまりの家を開院
平成23年 4月	武雄看護リハビリテーション学校(看護学科・理学療法学科)開校 福岡看護専門学校水巻校に助産学科を開設 名称変更:福岡水巻看護助産学校へ
令和 2年 4月	学校法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更
令和 4年 4月	令和健康科学大学 開学 看護学部 ・看護学科 リハビリテーション学部 ・理学療法学科 ・作業療法学科
令和 6年 3月	福岡看護専門学校 閉校 福岡和白リハビリテーション学院 閉校
令和 6年12月	みずまき助産院ひだまりの家を閉院
令和 7年 4月	福岡水巻看護助産学校 名称変更:福岡水巻看護専門学校へ 令和健康科学大学大学院 開設

2. 事業計画

—— 学校法人巨樹の会 2026年度事業計画 ——

第1期 中期計画 2022年度～2027年度(6年間)

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| 1. 教育 | 大学及び専門学校が目指す、養成する人材像に向けた質の高い教育活動の実現。 |
| 2. 研究 | 臨床実践に寄与できる研究を推進する。 |
| 3. 地域連携・社会貢献 | 地域・社会との連携を推進し、社会貢献活動を積極的に行う。 |
| 4. 組織運営 | 理事長を中心とした健全かつ適正な経営を行うためのガバナンス体制の強化 |
| 5. 施設設備 | 質の高い教育を目指すための計画的な施設設備の拡充及び整備 |
| 6. 財務基盤 | 学生の確保、適正化を目指した経費の効率化 |

2026年度(令和8年度) 学校法人巨樹の会 基本方針

<2026年度事業計画の概要>

法人設立から33年目を迎えた2022年4月に令和健康科学大学を開学し、2025年4月には新たに大学院を設置し、更に教育研究活動の充実を図っていきます。

現在、1校の大学と5校の専門学校を運営する学校法人として、建学の精神にある人間性豊かで、社会に貢献できる実践力を身につけた医療の専門職業教育を目指し、グループ病院の協力のもと、7年間一貫教育を掲げ質の高い人材を社会に送り出せるよう、健全かつ適正な経営を行うためのガバナンス体制の強化を行い、学校法人を取り巻く様々な課題を見据え、地域で選ばれる学校づくりに取り組みながら、着実に事業を推進してまいります。

1. 中長期的な財政計画の策定による将来構想の構築
2. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
3. 事務執行の業務効率化を高めるべく、DX化の促進
4. 退学者抑制の取り組み(進級率・卒業率90%以上の実現)
5. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み
6. 定員充足率向上への取り組み
7. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進
8. 働きやすい職場環境づくりの取り組み
 - 1) メンタルヘルスケア体制の充実と健康管理を推進
 - 2) ハラスメントを防止し快適な職場づくりを実現
 - 3) 年次有給休暇の取得促進のための取り組みを実施

3. 運営方針

—— 令和8年度 学校法人巨樹の会 運営方針 ——

1. 大学及び専門学校の持続的発展に向けた中長期戦略を推進する。

- 1) 専門学校の入試状況を踏まえた10年後の将来構想を検討
- 2) 大学・専門学校の役割を明確化し、機能分化と連携強化を推進
- 3) 18歳人口減少を見据えた広報・募集戦略の再構築

2. 科学的な根拠に基づく実践力を身につけた医療従事者の養成を行う。

- 1) 基礎教育と臨床研修との一貫教育の徹底
 - (1) 実践能力の強化に向けた教育体制作り
 - (2) 一人ひとりを大切にしたい教育体制(90%以上の進級・卒業率を目指す)
 - (3) 専門職連携を踏まえた教育の強化
- 2) 国家試験資格取得にむけての確実な指導体制(100%合格を目指す)
- 3) 関連施設への就職(昨年度以上の就職率を目指す)

3. 次世代教育に向けて、実践力のある教員の教師力、事務の実務能力を育成する。

- 1) 教育の効率、主体的学習意欲を高めるICT機器活用ができる能力の育成
- 2) 専任教員の教育実践における質向上への取組み
専任教員養成講習会(NS)・養成施設教員等講習会(PT・OT)への参加促進
- 3) 大学におけるFD・SDの充実とその活用を促進する
- 4) 学内・学外における研修制度の活用
- 5) キャリア向上のための修士・博士課程の大学院進学への推進

4. 令和健康科学大学の完成年度後を見据えた大学改革を推進する。

- 1) 教育内容の高度化と特色化(DP達成を軸とした教育改善)
- 2) 外部評価・認証評価を見据えた内部質保証の強化
- 3) 地域医療機関・法人関連施設との連携強化(実習・研究・就職)
- 4) 大学院の完成年度に向けた教育の質向上

5. 経営基盤の安定化と財務の健全化をめざす。

- 1) 定員充足率向上による収入安定化
- 2) 適正な人件費・施設設備等の管理
- 3) 補助金・寄付金などの外部資金の積極的獲得

4. 教育計画

I. 教育の強化

1. 幅広く深い教養と豊かな人間性を基盤とした総合的な判断力を有し、全ての人々の健康のために地域社会に貢献できる看護師、理学療法士、作業療法士を育成する教育を実践する。
 - 1)「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」など社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、アクティブラーニング等、学生の能動的な活動を取り入れた授業を実践する。
 - 2)専門教育においては、医療における実践力を身につけるために臨床のリアリティのある事例を活用し、専門的な知識と技術、態度を統合して学べるようなシミュレーション教育を行う。
 - 3)学生の内発的動機付けを高める教育の実践のために、学習した内容のフィードバック、知識の整理・構造化を促すような授業デザインを工夫する。
 - 4)ICT教育ができる環境を改善しながら、教育効果を高める教育方法を実践する。
 - 5)学校評価を通して、カリキュラムの評価・改善を図る。

II. 学生支援について

1. 学生支援体制を整える。
 - 1)学生の主体性を尊重した教育的支援を行う。
 - 2)学生の多様性に配慮した一人ひとりを大切に教育支援を行い、学校医、学校カウンセラーと連携して、学業継続を支援する。
 - 3)入学時から一人ひとりにあったキャリアデザイン形成を支援し、就職率を高める。
 - 4)実践力を身につけることできる卒後教育が充実した病院への就職支援を積極的に行う。
専門学校;6年間一貫教育(基礎教育3年＋卒後3年間の臨床教育)
大 学;7年間一貫教育(基礎教育4年＋卒後3年間の臨床教育)

III. 国家試験対策の強化

1. 国家試験全員合格に向けての対策の強化を図る。
 - 1)昨年度の国家試験対策の評価を行いながら、国家試験対策の強化を図り、全員合格を目指す。
 - 2)各学年の学生の傾向を分析しながら、教育方法を工夫し、学生の基礎学力の向上を図る。

IV. 入学生確保について

1. 入学生の確保を強化する。
 - 1)広報委員会を中心とした計画的運営により、広報活動を積極的に行う。
ホームページ、ブログ、リスティング等、WEB上の広報活動の充実を図る。
パンフレット、配布資料、広告、募集活動の工夫を行う。
 - 2)各科の特徴を生かした募集活動を、WEBを含めて戦略的に行う。
看護学科:指定校推薦校の見直し、募集活動の早期化、範囲拡大(地域、大学など)
進路指導教員へのアプローチ、入試の定着、募集活動の範囲・学校訪問
数の拡大、複数回の訪問

PT・OT:奨学金制度の充実、進路指導教員へのアプローチ、複数回の学校訪問、
充実したオープンキャンパスの開催
OTの職業認知を徹底的に高める活動を実践

V. 管理体制の強化

1. 経営意識を落ち円滑な学校運営を行う。

- 1) 学校評価を基にPDCAサイクルにフィードバックし改善を行う。
- 2) 危機管理の意識をもち、適切な判断・対応を行う。
- 3) 教職員の適正人数の配置を行う。
- 4) 各部門相互の協力・連携による組織力の向上を図る。
- 5) 情報機器の活用により、業務の効率化、情報の共有化を図るとともに情報セキュリティ対策を強化する。

2. 教職員の目標管理を活用し、必要な能力の向上に努める。

- 1) 人材育成の視点をもった目標管理を行うことで、教職員自身の役割を明確にし、主体的な判断や行動ができるようにする。
- 2) 教職員をサポートする研修体制の充実を図る。
 - (1) 専門学校においては、教員としての学生対応や各専門領域での専門性を向上させるための関連学校の研修(中央研修)を計画し参加を促す。
 - (2) 大学においては、教職員の能力開発を目的としたSD/FDを推進していく。

5. 設置する学校・学科等

大学

令和8年4月1日現在

学校名	開校年月	学 部	学 科	修業年限	入学定員	総定員数
令和健康科学大学	令和4年4月	大学院	健康科学研究科	2年	12名	24名
		※令和7年度開設				
		看護学部	看護学科	4年	80名	320名
		リハビリテーション学部	理学療法学科	4年	80名	320名
			作業療法学科 ※R8年度から 60名を40名に変更	4年	40名	220名

専修学校

学校名	開校年月	学 科		修業年限	入学定員	総定員数
小倉リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		理学療法学科 ※令和7年度以降学生募集中止	夜間コース	4年	—	80名
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
下関看護リハビリテーション学校	平成16年4月	理学療法学科 ※令和7年度以降 入学定員80名を40名に変更	昼間コース	3年	40名	160名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名
八千代リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	120名	360名
		理学療法学科 ※令和7年度以降学生募集中止	夜間コース	4年	—	80名
		作業療法学科 ※令和8年度以降 入学定員80名を60名に変更	昼間コース	3年	60名	220名
福岡水巻看護専門学校	平成20年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	80名	240名
武雄看護リハビリテーション学校	平成23年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名

6. 各校の事業計画書

学校法人巨樹の会では、2022年度を初年度とする2027年までの6年間を第1期として「教育」「研究」「地域連携・社会貢献」「組織運営」「施設設備」「財務基盤」の6つの項目について、中期計画を立案している。法人としての方針及び推進事業を設定し、建学の精神及び教育理念に基づき、各学校の単年度の事業計画と連動させることにより、確実に計画を推進していく。

- ・ 令和健康科学大学
- ・ 小倉リハビリテーション学院
- ・ 下関看護リハビリテーション学校
- ・ 八千代リハビリテーション学院
- ・ 福岡水巻看護専門学校
- ・ 武雄看護リハビリテーション学校



令和健康科学大学

REIWA HEALTH SCIENCES UNIVERSITY

事業計画(令和8年度)

— 日本の医療を変える大学を創る —

1. 教育

(教育)

学部においては、令和8年3月に第1期生の卒業を迎え、開学時のカリキュラムが完成することを機に、現行カリキュラムを評価し、看護師・理学療法士・作業療法士の育成に向けてさらなる教育内容の充実を図るために、令和9年度入学生からカリキュラム改正を行うこととなった。それに際し、既存科目の内容を発展させるとともに、新たな視点を取り入れた科目編成により対応していく。またカリキュラム改正に伴い学事システムの改修、読み替えの対応等の整備を行う。

大学院においても完成年度を迎えるにあたり、設置計画の遂行もあるが、本大学院ディプロマポリシー等を基に現行カリキュラムの適正化などを見極めつつ、将来的なカリキュラムの検討も行う。

(学生支援)

学生交流の活性化と情報発信を行い、活気ある学内コミュニティを形成し、経済的な支援に対し確実な周知を行う。また海外研修の促進にむけて保護者向けの説明、また早期計画準備のサポートを行う。

キャリア支援について、1期生の就職実績を基に、より進路先に対応した採用試験対策の実施と卒業生のネットワークを活用した学内説明の実施を図る。

2. 研究

教員個々が自らの研究基盤に基づき、科学研究費補助金を含めた外部資金の獲得を目指すよう支援を行う。また研究インテグリティに関する規程・取扱い等の周知を行う。

研究倫理に関する研修について継続的に実施する。

3. 地域連携・社会貢献

海外協定校、他機関との連携強化・拡充及び相互交流の推進を行う。

4. 組織運営

学長のリーダーシップのもと、新たな人事体制にて大学内外の課題解決に取り組むとともに、適切な情報公開を進める。

令和10年度の外部の認証評価受審に向けて、内部質保証推進要項に基づき自己点検評価活動を推進する。また、危機管理体制を確立させ事業の継続性を確保する。

5. 施設整備

大学の施設設備の点検を常に行い、適切な教育研究環境を維持する。学生への情報セキュリティの徹底を行い、学内施設のICT教育の環境整備のより充実化を図る。

6. 財務基盤

入学定員充足率の確保のため、学生募集に関する広報、各イベント集客および受験移行率の上昇へつながる広報を実施するとともに、大学全体の効率的な支出に努める。



小倉リハビリテーション学院

自 分 を 律 し 、 共 に 生 き る
～ ICT で つ な が り を 深 め 、 個 性 が 輝 き 、 選 ば れ る 学 校 へ ～

1.【人間力の育成】 ボランティアと対話による「社会性」の醸成

目標:地域との共生を深め、医療人にふさわしい規範意識と奉仕の心を育む。

1) マナー教育と生活習慣の改善:

挨拶、時間厳守、報連相を徹底。遅刻・欠席に対しては迅速な面談を行い、自律した生活習慣を定着させる。

2) 「共生ボランティア」の定例化:

地域清掃やイベント参画を通じ、他者貢献の喜びを体験させ、地域からの苦情を「信頼と期待」へ転換する。

2.【高い教育成果】国家試験合格率・就職率100%

目標:誰一人取り残さない個別支援体制の確立。進級率100% 退学者防止。

1) ICTを活用した学習習慣の確立と支援の個別最適化:

学習アプリなどの活用状況を分析し、学習の停滞を早期に検知。多様な学生(社会人・学習困難者等)に合わせた補習や指導を展開する。

2) ミスマッチのない就職支援:

学生の適性を早期に把握し、担任と就職担当がシステムで情報を共有。
丁寧な履歴書添削や面接指導で選ばれる学生へ成長させる。
施設訪問による現場確認の継続。(卒後教育)

3.【教員力の強化】多様性を力に変える「伴走型」指導

目標:ICTも活用し学生を惹きつける質の高い授業の実践

1) 「わかる・参加する」授業への転換:

集中力を維持させる授業デザインを実践する。授業満足度向上。
「教えた」から「わかった」「参加した」へ導く教授力を磨く。

2) 組織的な学生支援(コーチング):

教員間で学生情報をリアルタイム共有し、誰でも一貫した質の高い指導ができる連携体制を構築する。支援不足による退学者は出さない。

4. 【財務・広報】信頼回復による充足率の向上と安定した財務

目標:教育の質をアピールし、持続可能な学校運営基盤を築く。

1) 「面倒見の良さ」の可視化と発信:

手厚いサポートと、成長する学生の姿を積極的に発信し、受験生・保護者からの信頼を得る。
オープンキャンパスでは最新機器の活用や臨床体験型授業、学生主体の学校説明を実施し
「魅力ある職業、楽しく成長できる学校」を実感してもらう。

2) 事務業務のデジタル化を推進:

DX化を推進することで教職員が学生指導に集中できる時間を創出。
不要な経費を削減し、教育環境の充実に投資する。

3) 教育環境の整備:

臨床実習施設との連携強化や学生寮の整備、学校施設の定期点検を通じて、安心・安全で
学びやすい教育環境を維持・向上させる。

- ・臨床実習施設との連携強化:臨床実習が効果的に進められるよう、施設と調整を行う。
- ・学生寮の整備:新しい女子寮を含め、安全・安心な寮生活を維持する。
- ・学校施設の定期点検:校舎や備品を適切に管理していく。

5. 達成評価指標

- 1) 国家試験合格率: 100%(全員受験・全員合格)
- 2) 就職率: 100%(希望分野への内定)
- 3) 地域からの苦情: ゼロ(マナー向上と地域貢献)
- 4) 定員充足率: 前年度比より向上 8割以上
- 5) 進級率: 99%(電子教科書活用による意欲向上)

信頼され、選ばれる学校

学生の学力強化とICT教育、多職種連携教育(IPE)の強化
～ ひとりひとりを大切にしながら ～

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

- 1) 両学科協力によるIPEの充実
- 2) シミュレーション教育の充実
- 3) 考える学習の強化

2. 学生満足度向上に向けた取り組み

- 1) 教員の教育力向上
- 2) 教育教材の充実
- 3) 学校および学生寮の施設・設備の改善

3. 研究

- 1) 教育関連の研究および関連病院と連携した研究の促進

4. ICT環境の運用

- 1) ICT環境の効果的かつ効率的な活用

5. 退学者抑制の取組み(進級率・卒業率90%以上の実現)

- 1) 学生情報の共有と早期対応
- 2) カウンセリングの活用とカウンセラーとの連携
- 3) 個別の学習支援強化
- 4) 保護者との連携強化

6. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み

- 1) 学年に応じた学習指導
- 2) 能動的学習の強化

7. 定員充足の取り組み

- 1) インターネット、SNS等による情報発信の強化
- 2) 高校訪問やガイダンスでの情報発信の強化
- 3) 地域連携の強化(部活支援活動、キャリア教育への協力)

8. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進

- 1) 地域ボランティア活動参加への促しと表彰
- 2) 関係団体・企業との連携による地域貢献の推進

9. 業務効率化の促進

- 1) 業務効率向上に向けたICTの活用
- 2) 業務の見直しと適切な業務分担
- 3) 効率化に伴う設備の充実

～ リハビリテーションの未来を支え切り拓く学生を育て輩出する ～

1. 実践的な教育の推進

- ・ 医療人としての目的意識と意欲、豊かな人間性を育む
- ・ 少人数指導での学習サポートの取り組み
- ・ ICT教育の推進継続による効率的な学びの提供
- ・ 教員間の連携、適切な役割分担
- ・ グループ病院との連携による臨床実習の充実したサポート
- ・ 国家試験合格率100%に連動するような教育指導体制作り

2. 教育環境の整備

- ・ 初年次教育を充実、修学支援力を高め退学者を抑制、進級率100%を目指す
- ・ 学生や教職員が利用しやすい学生相談室の案内
- ・ 学びを止めないオンライン教育環境の整備
- ・ 防犯カメラ設置での抑止力などの安全対策
- ・ 教育機材の充実
- ・ 就職支援を充実、グループ病院はじめ年内早期の就職内定100%を実現する

3. 学外での学習機会の確保、整備と地域貢献

- ・ 学外学習やボランティア活動の継続実施で地域活性化への協力
- ・ カンボジア研修旅行の実施継続
- ・ 周辺地域の清掃活動

4. 定員充足につながる効果的な広報活動

- ・ 高等学校訪問での情報共有による連携とガイダンスへの積極的な参加、
- ・ 県外や離島、養成校がない地域など重点高校を絞って広報範囲を拡大
- ・ リスティング、リターゲティング、YouTube広告など効率的な広告運用
- ・ 市役所サイネージや駅看板での広告継続で周辺地域への認知度アップ
- ・ 学院祭開催による地域活性化への協力と近隣地域住民へのアピール
- ・ 学生からの学生目線でのSNSを使った学生生活の情報発信

5. 経費削減での効率的運営

- ・ 授業資料や会議資料などペーパーレス化の推進継続
- ・ 可能なものは郵送からメール等に切替
- ・ 省エネ、節約への教職員の意識改善
- ・ 学校評価等からの意見を参考に、効率的な運営に係るDX化を試みる



地域に貢献できる人材育成 ～信頼を得られる学校づくり～

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
 - 1) 教職員の知識・スキル向上のための研修や自己研鑽の推奨
 - 2) 教職員の成長とキャリア形成に努める
 - 3) 看護実践能力が身につく授業の工夫
2. 学生満足度向上に向けた取り組み
 - 1) 空スペースを有効活用し、学生にとって快適な空間づくりをする
 - 2) 学生との援助的関係の確立
3. 進級率・卒業率向上への取り組み
 - 1) 学生の意見や考え方の違いを理解・尊重し、個々に応じた支援の実施
 - 2) 保護者との連携を図る
 - 3) 学生の状況に応じたカウンセリングの効果的な活用
4. 国家試験合格率100%に向けた取り組み
 - 1) 3年間を通して計画的な国家試験対策の実施
 - 2) AI分析を活用し弱点強化を図る
 - 3) 学習支援への取り組みの強化
5. 定員充足への取り組み
 - 1) 教職員が一丸となって学生確保に取り組む
 - (1) 魅力あるホームページ作り
 - (2) 参加者の満足度を満たす学校説明会の実施
 - (3) 高校を訪問し、学生の状況提供を行い連携を図る
6. 地域との交流の促進
 - 1) 授業を通して水巻町住民との交流を図る
 - 2) 学校の教育設備を活用した交流を図る
7. 経費削減に向けた取り組み
 - 1) 授業資料・会議資料のペーパーレス化
 - 2) 実習記録のデジタル化の推進



令和8年度 武雄看護リハビリテーション学校

熱気溢れる開かれた信頼される学校創りに邁進する
～学生を主体とした活力と活気ある学校にするために～

I.重点施策事業

1)医療人としての人間性・人間力の育成

- ① 基本的生活習慣と学習習慣の確立をさせ、自主的な活動の推進と人間性の育成をしていく
- ② 学生一人ひとりを大切にした教育活動の展開をして、コミュニケーション能力を付けさせる
- ③ 社会地域活動への積極的な参加と、学科・学年間連携によるアイデンティティの醸成していく

2)高校との信頼構築で定数確保(少子化対策)に向けての施策

- ① 学校単独のガイダンスの開催と、高校部活動への援助や支援をする。また在校生からの近況報告を実施する
- ② 高専連携・地域密着型の広報活動の推進と、早期の入学試験の導入をしていく
- ③ ホームページブログやSNSを活用した学校情報の迅速な配信と活動状況の提供をする
- ④ 受験業者とマスメディアを適切に利用した、受験生への情報提供をする

3)進路保障100%達成

- ① 履歴書添削と小論文指導や面接指導に携わる教員の力量を高め早期決定に繋げる
- ② 関連病院への就職に向けての連携強化を図り、病院見学・就職説明会の実施を早期に行う

4)国家試験全員合格

- ① 1年次より学習指導体制の構築と、3年間のスパンでの国家試験対策の取り組みをしていく
- ② 学生の能力に応じた個別指導対応とグループ学習を実施して底上げを図る
- ③ 学科の問題作成や学生指導の在り方の共有と、各種研修会に参加して指導力向上をしていく

5)退学・休学者をなくす

- ① 定着率100%達成のために、担任・副担任の連携と個別面接・カウンセリングの実施での早期対応をする
- ② ホームページやメール機能を活用した、家庭への学校活動状況の配信と連絡体制の連携強化をしていく

6)教職員の資質向上

- ① 学校長が示した教育方針の達成のために、教職員は共通理解を図り、学生のために全力で取り組んでいく
- ② 教育力向上のための各種研修会、講習会の受講と学科での積極的取組みと実践をしていく
- ③ 専任教員の強みを生かした、魅力的な講義実施と教育システムなどの教員間評価の活用をする
- ④ 専任教員として、国家試験対策と就職支援指導力のレベルアップを目指した自己研鑽をする
- ⑤ 専門分野の幅広い授業が行えるように、担当外の専門教科指導力アップをして担当時間数を増やす

7)魅力ある指導実践(ICT活用等)

- ① ICT環境のより効果的な活用(電子書籍やアプリ教材の導入)とオンライン授業の実施を導入する
- ② 図書室の書籍購入と演習の充実を図るための必要で最新の教材購入(理学:スパイロメーター購入など)
- ③ 両学科の特徴を生かした、看護学科と理学療法学科の職種間連携の推進と協力体制を構築する

8)地域、行政と連携したボランティア活動

- ① 特別支援学校・地域病院スポーツ大会・老人クラブ・地域イベントに参加して連携を図る
- ② 市町村の行事参加や社協との連携を図り、ボランティア活動の実践をしていく
- ③ 今年度開催の全国産業教育フェア佐賀大会にブースを設ける

9)教育費等の削減と業務の効率化

- ① 教育機材や補助教材の適切な購入と使用方法の徹底をしていく
- ② 消耗品や光熱水費(適切な温度設定)の節約への取組み(ペーパーレス)を推進する
- ③ 県の補助事業を活用した、学校予算の効果的な使途での教育力向上を目指す

10)学校環境整備

- ① 学生寮の部屋数の確保と駐車場の整備をしていく(次年度閉鎖予定の男子寮問題を検討する)
- ② 職員・学生の危機管理体制と連絡体制の周知徹底と訓練を実施する
- ③ 安全管理のために施設・設備の老朽化、地盤沈下のための改善
- ④ 大規模工事としてエレベーターのメンテナンスやエアコンの修理をしていく

7. 学校法人予算書

2026年度事業活動収支予算

(単位:千円)

教育活動収支	収入事業の活動	科目	2026年度予算
		学生生徒等納付金	3,049,300
		手数料	29,791
		寄付金	65,650
		經常費等補助金	508,260
		付随事業収入	112,483
		雑収入	24,790
		教育活動収入計	3,790,274
	支出事業の活動	人件費	2,167,423
		教育研究経費	1,554,970
管理経費		440,185	
徴収不能額等		465	
教育活動支出計		4,163,043	
教育活動収支差額		△ 372,769	
教育活動外収支	収入事業の活動	受取利息・配当金	88,764
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	88,764
	支出事業の活動	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
		教育活動外収支差額	
經常収支差額		△ 284,005	
特別収支	収入事業の活動	資産売却差額	0
		その他の特別収入	25,010
		特別収入計	25,010
	支出事業の活動	資産処分差額	100
		その他の特別支出	0
		特別支出計	100
		特別収支差額	
基本金組入前当年度収支差額		△ 259,095	
基本金組入額		△ 189,212	
当年度収支差額		△ 448,307	
前年度繰越収支差額		△ 91,886	
基本金取崩額		500	
翌年度繰越収支差額		△ 539,693	
(参考)			
事業活動収入計			3,904,048
事業活動支出計			4,163,143
事業活動収支差額			△ 259,095

2026年度資金収支予算

(単位:千円)

収入の部	
科目	2026年度予算
学生生徒等納付金収入	3,049,300
手数料収入	29,791
寄付金収入	64,650
経常費等補助金収入	525,770
付随事業収入	112,483
受取利息・配当金収入	88,764
雑収入	24,790
借入金収入	0
前受金収入	652,821
その他の収入	1,159,960
資金収入調整勘定	△ 660,560
前年度繰越支払資金	2,874,372
収入の部合計	7,922,141

支出の部	
科目	2026年度予算
人件費支出	2,095,547
教育研究経費支出	1,106,024
管理経費支出	356,786
施設関係支出	123,250
設備関係支出	65,962
資産運用支出	0
その他の支出	1,235,240
資金支出調整勘定	△ 124,407
翌年度繰越支払資金	3,063,739
支出の部合計	7,922,141

